

1992 年 10 月、王子製紙株式会社は東京の中心地、銀座にある本社ビルの中にホールを建設しました。王子ホールは観客とアーティストを一つにするような創造的空間として建設され、パフォーミングアートへ重要な貢献をしました。王子ホールは主に室内楽やリサイタル向けにデザインされ、国内外の有名アーティストたちを招待し続けています。

2018 年の初めに王子ホールは改装のため一時的に閉館し、10 月 25 日に NHK 交響楽団のコンサートマスター、篠崎“マロ”史紀と同僚によるウィーンのワルツ音楽で再開されました。ホールに入ると、訪問者は印象的な高い天井と大理石の床に迎えられます。1991 年に有名な日本の備前焼の陶芸家藤原悠が作った、ロビーの左側にある大きな壁画、森のうたを見逃すことはできません。ロビーとコンサートホールへ続くらせん階段は、フランス人芸術家の Ramon Dilley による絵画で飾られています。しかし、ショーを盗むのはコンサートホールの素晴らしいインテリアです。シューボックスのように設計され、ステージは木でできており、観客はステージを非常に近く感じる事ができるでしょう。この陽気な雰囲気は 19 世紀のヨーロッパの精神を呼び起こし、ラウンジへと広がります。そこでは、他のゲストと交流しながらおしゃべりをしながら、お手頃な料金で飲食を楽しめます。